

シンポジウム | 特別講演

支部組織・地域医療福祉シンポジウム

後期高齢者歯科健診を円滑に展開するために：オーラルフレイル・口腔機能低下症を地域で支えるシステム作り

座長:平野 浩彦(東京都健康長寿医療センター歯科口腔外科)、糸田 昌隆(大阪歯科大学医療保健学部口腔保健学科／大阪歯科大学附属病院口腔リハビリテーション科)

Sat. Jun 23, 2018 10:50 AM - 12:00 PM 第2会場 (1F 小ホール)

【平野 浩彦先生略歴】

日本大学松戸歯学部卒業 医学博士

1990年 東京都老人医療センター歯科口腔外科研修医

1991年 国立東京第二病院口腔外科研修医

1992年 東京都老人医療センター歯科口腔外科主事

2002年 同センター医長 (東京都老人医療センター・東京都老人総合研究所の組織編成により東京都健康長寿医療センターへ名称変更)

2009年 東京都健康長寿医療センター研究所専門副部長

2016年 東京都健康長寿医療センター歯科口腔外科部長

日本老年学会理事

日本サルコペニア・フレイル学会理事

日本応用老年学会理事

日本老年歯科医学会常任理事・専門医・指導医

日本大学松戸歯学部客員教授

東京歯科大学非常勤講師

昭和大学歯学部非常勤講師

東京医科歯科大学歯学部非常勤講師

九州歯科大学歯学部非常勤講師

【糸田 昌隆先生略歴】

1988年 岐阜歯科大学卒業

大阪府八尾市 歯科医院勤務

1990年 大阪歯科大学補綴学第2講座入局 (後に有歯補綴咬合学講座に改名)

1991年 わかくさ竜間リハビリテーション病院非常勤勤務

1995年 同 歯科医長

2004年 同 歯科・リハビリテーション科診療部長

2017年より現職

大阪府歯科医師会老人歯科保健推進部会オブザーバー

日本慢性期医療協会 日本慢性期リハビリテーション学会 口腔・栄養部会委員

全国老人保健施設協会学術委員会委員

日本リハビリテーション病院・施設協会医科歯科連携委員会委員

日本老年歯科医学会：広報・研修，社会保険，支部組織地域医療検討委員会各委員会委員 など

【抄録】

平成26年度の厚生労働省において75歳以上の後期高齢者医療の被保険者に係る歯科健診に対する予算が大幅に拡充された。この後期高齢者歯科健診の概要は、口腔機能低下による嚥下性肺炎等を予防するための、歯・歯肉の状態や口腔衛生状態等をチェックする歯科健診を実施することとなっている。また、本歯科健診が円滑に実施できるよう、日本歯科医師会と日本老年歯科医学会の共同により例示された問診票例が広域連合に参考送付されている。その問診票例の検査項目として、歯の状態（う蝕、義歯の状況等）、口腔衛生状況、歯周組織の状況

等、咀嚼能力評価、舌機能評価、嚥下機能評価などが例示されている。

つまり本健診は、う蝕、歯周疾患などの歯の状態評価に加え、口腔機能も含めた評価が実施される内容となっており、近年注目を集めている、オーラルフレイル、さらには新たに保険収載された口腔機能低下症をスクリーニングするシステムと言っても過言ではないであろう。

本シンポジウムでは地域での本健診実施報告を通し、「高齢者の口腔機能を診る」システム作りの重要性を議論できれば幸いである。

[S8-1]神奈川県口腔ケアによる健康寿命延伸事業

ーオーラルフレイルの実情調査についてー

○佐藤 哲郎¹ (1. 一般社団法人神奈川県歯科医師会)

【略歴】

1983年 日本歯科大学卒業

1987年 日本歯科大学大学院修了（臨床系歯科補綴学）

1987年 日本歯科大学助手（1989年3月まで）

1990年 さとう歯科医院継承

2005年 川崎市歯科医師会理事（地域保健部）

2009年 川崎市歯科医師会常務理事（地域保健部）

2011年 川崎市歯科医師会災害対策検討委員会常務理事併任

2012年 川崎市歯科医師会災害対策部常務理事併任

2013年 川崎市歯科医師会常務理事（地域医療部、災害対策部）

2015年 一般社団法人神奈川県歯科医師会理事（地域保健・地域医療・医療介護総合確保・医療提供体制検討）

2017年 一般社団法人神奈川県歯科医師会理事（地域保健委員会 健康増進事業部・学校歯科保健委員会）

神奈川県歯科医師会は、神奈川県行政、東京大学飯島勝矢教授を中心とした医科歯科研究者と協働し、高齢者の口腔機能の状態を把握し、その結果による課題解決に向けた評価方法およびオーラルフレイル改善プログラムの効果的、実践的な手法の確立を目的とした、調査・分析を行った。

県内在住65歳以上の自立から要介護状態の3,297名を対象に詳細な検査を行い、(1)現在歯数20歯未満、(2)咀嚼力判定ガムスコア3以下、(3)オーラルディアドコキネシス6回/秒未満、(4)半年前に比べて固いものが食べにくくなった、(5)お茶や汁物でむせることがある。の5項目中3項目以上の該当者をオーラルフレイルと判定し、1,431名（43.4%）が該当する結果だった。

本調査結果を踏まえ、オーラルフレイル改善プログラムを作成し、オーラルフレイルに該当した調査協力者のうち、127名に改善プログラムの介入調査を実施した。